

平成23年度 事業報告

自 平成23年4月1日

至 平成24年3月31日

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

東京都三鷹市新川5-14-16

公益目的事業の状況

1 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

（1）アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する蔵書収集及び閲覧・貸出し

蔵書収集は、新規購入としてアジア・アフリカ諸国の辞書、食文化、中国語と韓国語による日本文化、歴史に関する書籍等を購入した。また、大学の紀要などの寄贈も受付けた。閲覧・貸出しは、コンピュータによる蔵書管理システムを導入、運用を開始した。これにより外部から本法人ホームページを通して蔵書検索が可能になった。また、国立情報学研究所が運営するデータベース（Nacsis Webcat）に対して本館所蔵図書の登録も進めた。なお、本システム導入に伴って閲覧・貸出し業務の見直しを行い、あらたな利用制度に基づいた閲覧・貸出し業務を開始した。なお、蔵書整理を目的とした蔵書の「古本市」を開催（平成 23 年 6 月、同 24 年 3 月）。処分対象の蔵書を来館者に無償で提供した。

（2）アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する文化講座の開催

文化講座「アジア・アフリカを知る集い」を次の通り開催した。

第 19 回『アジア・アフリカの言語生活』

講演者：西江雅之（アジア・アフリカ図書館長）

開催日：平成 23 年 4 月 23 日

参加者数：25 名

第 20 回『辛亥革命と明治維新及び五・四運動』（社）中日文化研究所との共催

講演者：丸川哲史（明治大学政治経済学部教授）

開催日：平成 23 年 7 月 9 日

参加者数：27 名

第 21 回『イスラーム金融へのアプローチ』

講演者：椎名隆一（日本証券業協会国際本部国際部長）

開催日：平成 24 年 2 月 26 日

参加者数：17 名

（3）アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する調査・翻訳の受託

法人や個人からの依頼を受けて年間 23 件の翻訳案件を処理した。なお、翻訳者登録数は、年度末現在 125 名。

2 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

（1）日本語ならびにアジア・アフリカの言語・文化・社会に関する教育

ア 学校教育法第124条に基づく専修学校専門課程の教育

日本語学科は、平成22年10月入学「進学1.5年コース（45期）」（入学者数34名）同23年4月入学「進学1年コース（46期）」（入学者数13名）同23年10月入学「進学1.5年コース（47期）」（入学者数15名）を実施した。平成23年度の卒業生数は25名。進学実績は、大学院6名、大学・短大6名、専門学校10名。なお、アジア系語学科は、新規入学者はなく、休科状態であった。

イ 専修学校の附帯教育及び別科

個人を対象とした教育：

一般社会人向けの教育では、土曜コース語学講座（別科速成科昼間クラス）の他、少人数のニーズに応える特別講座や短期の語学講座等を実施した。また、初心者を対象にした語学の体験講座を企画し、NPO法人三鷹ネットワーク大学の文化・教養講座の一つとして開講した。開講言語や受講者数は以下の通り。

《土曜コース（別科速成科）》 人数は延人数

初級	：中国語（入門～初級3）	20名（うち初級修了生7名）
	アラビア語（入門～初級5）	35名（うち初級修了生2名）
	韓国語（入門～初級3）	29名（うち初級修了生6名）
	タイ語（入門～初級1）	5名
中・上級	：中国語（中級1～2）	6名
	アラビア語（中級2～上級7）	24名
	インド語（上級8～15）	18名
	韓国語（上級8～11）	20名
	タイ語（上級10～13）	14名

《特別講座》 人数は延人数

アラビア語会話	15名	アラビア語講読	27名
アラビア書道	26名	インドネシア語入門	4名
韓国語夜間講座	39名	プライベートレッスン（スワヒリ語等）	21名

《三鷹ネットワーク大学における語学の体験講座》

韓国語他	全6言語（平成23年4月）	29名
アラビア語他	全6言語（平成24年10月）	59名

法人・自治体・国の機関を対象とした教育：

官公庁からの派遣語学研修生を対象としたクラスを中心に、アジア・アフリカ語の語学研修を下記の通り行った。また、自治体が行う職員採用試験（中国語）の作成業務等を受託し、筆記試験の作成・採点、面接試験での試験官派遣を行った。

《語学研修》

中国語、インドネシア語、タイ語、ウルドゥー語、英語 各1件
日本語 2件 以上 7件を実施

ウ 在日外国人子弟に対する日本語教育及び学習支援

三鷹市内在住の外国人子弟3名(学齢：小学校6年生1名、中学校1年生1名、同3年生1名。うち1名は昨年度も受講)に対して、夏休み期間を利用した「第4回外国人児童生徒日本語教育支援プログラム」を実施した(平成23年8月)。生徒は市内の小中学校に在籍。それぞれのニーズ(日本語のブラッシュアップ、教科の補習等)に合わせて教育を実施。指導は語学院日本語学科の講師が行った。また、広報面では昨年度に引き続き三鷹市教育委員会の協力を得た。なお、子弟3名のうち2名に対しては、プログラム終了後も週一回程度、教育支援活動を継続した。(～平成24年3月)

(2) 学生寄宿舍の運営

アジア・アフリカ語学院に在籍する留学生の宿舎として当財団所有施設「有朋館(ゆうほうかん)」を運営(平成20年4月開館)。平成23年度の延べ入居者数は38名。このほか、(社)中日文化研究所の研修センター「青雲公寓(せいうんこうぐう)」を学生寮として利用した。平成23年度の延べ入居者数は16名。

(3) その他

三鷹国際交流フェスティバルへの参加

三鷹国際交流協会が主催する「三鷹国際交流フェスティバル」において、アジア・アフリカ語学院のブースを出展した。(平成23年9月)

上級学校訪問(見学)の受入れ

近隣の公立中学校が行う「上級学校訪問」の受入れを行った。来校した中学校は、立川市の市立中学校1校(平成23年10月)、多摩市の市立中学校1校(平成23年11月)。来校した中学生に対してアジア・アフリカ語学院専門課程の模擬授業(中国語)を実施した。

三鷹市の小学校との交流活動

近隣の市立小学校が行う国際交流を体験する授業にアジア・アフリカ語学院日本語学科留学生が招かれた。互いの国の紹介やゲームなどを通して交流を深めた。(平成23年11月)

3 国際交流事業

(1) アジア・アフリカ世界と日本人の人々を対象とした異文化体験の提供

平成23年度は交流プログラムについていくつか計画があったものの、東日本大震

災ならびに震災に伴う原発事故の影響により、すべて延期となった。

(2) アジア・アフリカ世界と日本の教育者・技術者などを対象とした人材交流の実施ならびにこれに係る職業紹介

中国・湖北省の黄冈師範学院から、日本語指導のための教員紹介の依頼を受けた。これをアジア・アフリカ語学院日本語学科所属教員から募ったところ、一名の教員が応募。平成 23 年 8 月より同校の日本語教員として勤務を開始した。

4 国際協力事業

(1) 外国人技能実習生受入れ活動

平成 21 年 10 月に受け入れた技能実習生（ベトナム人 1 名、職種：製本）に対する実習を継続して行った。実習の受入れ企業は三鷹市内の印刷会社。

(2) 日本語教育普及活動

国外における日本語教育普及活動の一環として、日本語教育を行っている国外の教育機関にアジア・アフリカ語学院日本語学科の教員を派遣し、現地担当教員との交流、研修活動を行った。平成 23 年度の実施状況は以下の通り。

実施時期と派遣先：平成 23 年 12 月 中国・瀋陽の中学校
派遣教員：長谷川公江（日本語学科教務主任）

その他の法人業務の状況

1 会員

公益財団法人に移行に伴い会員制度を刷新。あらたに個人会員の募集を開始した（平成 23 年 6 月）。平成 24 年 3 月末現在の会員内訳は以下の通り。

普通会員（個人）	37 名	
特別会員（法人、団体）	なし	
賛助会員（法人、団体）	1 社	技能実習生受入れ企業が対象

2 新社屋建設及び三鷹市立図書館開設に向けた準備

平成 25 年秋に竣工予定の新社屋建設に向けた準備作業を行った。とくに、同社屋

の一部で開館予定の三鷹市立図書館（三鷹市立南部図書館（仮称））に関しては、三鷹市との間で協議をすすめた。

3 業務執行体制

平成 24 年 2 月 23 日付で執行理事の人事を行った。菊地弘理事長が代表理事のまま会長に就任し、あらたに篠原昭雄専務理事が代表理事に選任され理事長に就任した。また、専務理事には木村常務理事が就任した。

以上

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

平成23年度 事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」の該当なし。

以上